

④「ロット番号」で決まる運命のリスク

さらに衝撃的なのは、ロット番号による差です。死亡率が極めて低いロットがある一方で、その1,000倍以上の死亡率を示す「危険なロット」が混在。また、接種後1年以内に2,000人以上が死亡したロットは全体の16.4%を占め、死亡率0.5%以上のロットを接種した人は全体の75.8%に達しています。これは「ロシアンルーレット」とも呼べる状況です。

●あなたと大切な人の命を守るために

国は、コロナワクチンによる健康被害の実態を把握しながらも、「重大な懸念はない」と繰り返しています。そんな中、市民の手で明らかにされたこの真実は、決して無視できるものではありません。まずは、ご自身やご家族が接種したワクチンのロット番号を確認し、データベースで調べてみてください。すでに体調がすぐれない方、そして今は症状のない方も、ワクチンを解毒（デトックス）されることをお勧めします（※6）。

※6 ワクチン解毒方法

下記のホームページや書籍をご参照ください。



全国有志医師の会



きょうから始める
コロナワクチン
解毒17の方法
(井上正康著)



免疫破壊
(中村篤史著)

愛西市の集団接種で起きた悲劇から考える

■ 40代女性が急性心不全で死亡

覚えていますか。2022年11月、愛西市の集団接種会場で40代女性がコロナワクチン接種後に亡くなりました。報道によると、接種後わずか5分で激しく咳き込み、泡状の血を吐き、血中酸素飽和度が54%まで急落する壮絶な容体でした。しかし、現場ではアナフィラキシーショックへの対応がなされず、救急搬送後に急性心不全で死亡が確認されたとのことです。市の医療事故調査委員会は、現場の対応に過失があったと認定し、遺族は損害賠償を求めて市を提訴しました。これに対し、市は請求棄却を求める姿勢をとっています。

■ 2,300人の死は何だったのか

愛西市の出来事で驚愕するのは、症状の苛烈さです。この事例に限らず、コロナワクチン接種直後の死亡事例には「お風呂から上がってこないのを見に行ったら浴槽に沈んでいた」など、不可解な状況が多々あります。また、「心筋炎」という、これまで聞き慣れなかった病名で多くの若い世代も亡くなっています。厚労省の「予防接種後副反応疑い報告制度」では、2,300人以上の死亡が報告されています。さらに、「予防接種健康被害救済制度」では1,000人以上の死亡が認定されています。これらの事実がありながら、厚労省が今なお接種を推奨し続けるのは、なぜでしょうか。遺族や後遺症患者が集団訴訟を起こし、市民が大規模なデモを行い、有志の研究者や医師が記者会見を開いても、大手メディアはほとんど報道しません。この日本の現状は、薬害エイズ訴訟が大きく報道された30年前とまったく異なります。今、真実を知る手段は限られています。命を守るため、コロナワクチンに対する疑問を一人でも多くの人と共有していきましょう。



予防接種健康被害救済制度

4コマ まんが 移民政策のブーメラン



《ゆうこく連合 3つの理念》

- ① 日本独立（不平等な「日米地位協定」の見直し など）
- ② 日本再興（日本を弱体化する「消費税」の廃止 など）
- ③ 日本救世（薬害を生む「mRNAワクチン」中止 など）



ゆうこく連合
WEBサイト



ゆうこく連合愛知
オープンチャット



ゆうこくタイムズ
バックナンバー

市民団体「ゆうこく連合」は、原口一博前衆議院議員が提唱する3つの理念のもと、日々の暮らしを大切にしている人たちが集まって結成されました。「いまの日本はどこかおかしい！」その思いを一票にのせ、票をたくさん集めて「日本人による日本のための政治」を実現することをめざしています。ぜひご参加ください。◆ゆうこくタイムズ編集部 yukokuaichi.mailmagazine@gmail.com